

飯南町産業活性化ビジョン

～アクションプラン～



生命地域

飯南町

飯南町産業活性化ビジョン策定会議

飯南町

平成21年3月

目次

はじめに	・・・ 3
1. 飯南町総合振興計画における産業活性化ビジョンの位置づけ	・・・ 4
(1) 飯南町総合振興計画の基本理念	
(2) 飯南町総合振興計画の基本計画	
2. 事業者の課題と町に求められる役割	・・・ 6
(1) ヒアリング調査	
① 調査目的	
② 調査対象	
③ 調査期間	
④ 調査方法	
⑤ 調査結果	
(2) 調査結果からみた町に求められる役割・機能	
3. 飯南町産業活性化ビジョン策定会議の先進地視察から見た方向性	・・・ 9
(ア) 視察先の概要と選定理由	
(イ) 視察調査内容（岡山県新庄村・NPO法人大山中海観光推進機構）	
(ウ) 視察調査内容から見た町に求められる方向性と役割	
4. ヒアリング調査及び先進地視察から見た町に求められる方向性と役割	・・・ 11
5. 飯南町産業活性化の方向性	・・・ 12
6. 飯南町のアクションプラン	・・・ 13
(1) 施策に対する組織体制	
① 町の体制	
② 里山コミッションの役割	
(2) 施策	・・・ 18
① 全般施策	
② 産業活性化のための段階施策	
③ ブランディング（ブランド化）	
④ 段階別の活動一覧	
⑤ 特定プロジェクト	
◆ やまといも・高原野菜編	
◆ 森林セラピー編	

《参考》

統計データ

・・・23

- 産業別就業者数
- グラフで見る就業者別人口
- グラフで見る業種別産出額
- グラフで見る飯南町産業の就業者割合
- 企業等ヒアリングシート（様式）

はじめに

本町は平成17年1月1日に旧頓原町と旧赤来町の二町が合併し、新町「飯南町」としてスタートしました。新町のまちづくりを進めるため、平成18年10月に「飯南町総合振興計画」を策定し、住みよいまちづくりに向け取り組んでいます。

その、飯南町総合振興計画基本計画の中で「地域を支える産業を創出するまち」を基本方針の一つとして掲げています。明るく豊かな郷土づくりを進めるためには、定住人口増加が不可欠でありその要件として人々の暮らせる場を確保、創出することが大きな課題です。その課題解決には、産業の活性化がまちづくりの面でも大きな鍵を握っています。このことから、「飯南町産業活性化ビジョン」を策定することとしました。

この飯南町産業活性化ビジョンは、本町の持つ自然・歴史・文化といった地域の資源を活かした産業の活性化、新しい産業の創出を目指して飯南町総合振興計画の考え方や方針を踏まえ、産業活性化の方向性と具体的なアクションプラン（行動計画）を表したものです。

策定にあたっては、町内企業・事業者の皆様、商工農林団体の皆様にご協力をいただき、沢山の貴重なご意見をお聞きしました。

そのごに意見を応えていくためにも、飯南町ではこの「飯南町産業活性化ビジョン」を基に事業をしていきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

なお、ビジョン策定に際し、JA 雲南・飯石森林組合・商工会からお出かけいただいた委員の皆さんをはじめ、島根県商工労働部・中山間地域研究センター職員のご指導に対し、厚くお礼申し上げます。

1. 飯南町総合振興計画における産業活性化ビジョンの位置づけ

本町は、中国山地の美しい自然に抱かれた、古い歴史や伝統ある町です。

私たちは、このふるさとを誇りとし、明るく豊かな郷土をめざしています。

明るく豊かな郷土の現実に向け、小さな^{まち}田舎からの「生命地域」宣言を基本理念として、まちづくりを進めます。

(1) 飯南町総合振興計画の基本理念

基本理念

小さな^{まち}田舎からの「生命地域」宣言

～ 里山再生 ～

■ 「生命地域」とは・・・

- 中国山地の**自然の恵み**
- 神戸川の**源流**、斐伊川・江の川へ注ぐ**清流**
- 自然を活かした**人々の営み**

・・・本町は、**生命の源**となっている**“生命地域”**です

(2) 飯南町総合振興計画の基本計画

基本計画中の6方針から産業に関する項目

産業分野

- 基本方針1 地域を支える産業を創出するまち
- 基本方針2 豊かな自然を守り、活かすまち
- 基本方針3 快適で安心できるすみよいまち
- 基本方針4 住民相互が支え合うみんなにやさしいまち
- 基本方針5 心豊かで創造性あふれる人材を育てるまち
- 基本方針6 住民の自立（律）行政との協働で運営するまち

基本計画

地域を支える産業を創出するまち

地域に合った産業を伸ばし、活力のあるまちをつくります。

【 施策 】

里山資源を活かした産業の創出

- ・ 地域資源を活かした生命産業の創出
- ・ 観光交流産業の振興
- ・ 交流を支える組織や人材の育成
- ・ 生活支援産業の創出

安全安心な食材提供と農林業の活性化

- ・ 循環型農業の推進
- ・ 農林業の生産基盤の確立

地域に密着した商工業の活性化

- ・ 商工業の経営基盤の強化
- ・ 地域産業の連携による雇用促進

2. 事業者の課題と町に求められる役割

町総合振興計画で位置づけている産業活性化を具体的に推進するためには、主体者である企業・事業者の状況を把握し、課題抽出が重要です。

よって、次のとおりヒアリング調査を実施し、その意見をビジョンに反映させます。

また、その資料を基に活用できる資源（経営資源）の原石を発掘し、幅広く調査することで21世紀の飯南町産業施策へ反映させます。

(1) ヒアリング調査

① 調査目的

町内で活動を展開する企業・事業者を対象に、事業規模・生産流通などの基本事項、公的支援機関や支援制度の利用状況、町に求める役割・機能などを把握し、産業施策を整理するための飯南町産業活性化ビジョン策定会議の基礎資料にします。

② 調査対象

飯南町の産業をしるために、産業全般（1次・2次・3次産業）にわたって現状把握することとし、調査対象を下記区分により抽出しました。

- ◆ 農業法人など企業的な経営を行っている方（10社・者）
- ◆ 森林資源を活用して経営を行っている企業（1社・者）
- ◆ 土木施工建設業者（3社・者）
- ◆ 建築建設業者（3社・者）
- ◆ 製造業については誘致企業全社と雇用労働者数の多い町内企業・業種（5社・者）
- ◆ 物流視点から物資輸送業者（2社・者）
- ◆ 食堂・レストラン事業者（10社・者）
- ◆ 町外での営業事業者（6社・者）
- ◆ 町内宿泊業の実態を把握するため宿泊事業（2社・者）
- ◆ まちづくりの視点からの自治振興組合等（2社・者）

合計44社・者を調査

③ 調査期間

平成20年9月1日から9月12日の間

④ 調査方法

飯南町産業活性化ビジョン策定会議ワーキンググループメンバーが各事業所など訪問し、ヒアリングシートを基に代表者及び責任者へ聞き取り調査を行いました。

⑤ 調査結果

町内企業及び事業者の現状と課題とその対策を取り上げ、それぞれの企業及び事業者が、飯南町（行政）に対する要望についてまとめます。

		現状と課題	対策の方向	要望
商 品 ・ サ ー ビ ス		ニーズ対応できていない	信用と信頼の商品開発 環境対策型商品の開発	商品開発に関する整備・加工場の立地また 情報提供など
	農 林 業	生産量少・受注減少	生産量拡大と付加価値化 (有機農法・化石燃料の 代替)	基盤整備・施設整備・加工場立地など
	建設・製造業 サービス業	受注減少	時代を察知した商品開発	環境（地球温暖化）対策商品開発の支援
設 備		朽設備不足・老朽化	更新または新規導入	融資支援
	農 林 業			
	建設・製造業 サービス業	設備不足・老朽化	更新または新規導入	融資支援
技 術 力		技術に自信	可能性への展開	外部への情報発信（事業所PR）
	農 林 業			
	建設・製造業 サービス業	技量はある・専門的技術取得	存在感PR	行政とタイアップした情報網の共有化と人 材・技術力のPR
経 営		営業利益減・経常支出増	新商品開発・コスト対策	ニーズ情報の提供や、商品開発の支援 町内異業種間の交流実施
	農 林 業			
	建設・製造業 サービス業	営業利益減・経常支出増	現商品利活用での新商品 開発・コスト対策	ニーズ情報の提供や、商品開発の支援 町内異業種間の交流実施
生 産 管 理		コスト重視での生産量確保	資源の有効活用	新商品開発及び付加価値化への支援
	農 林 業	コスト削減対策	資源の有効活用	有機農法の推進と支援
	建設・製造業	原材料高騰	コスト削減	新分野参入への支援
	サービス業	生産量少・受注減少	生産量拡大と付加価値化	新商品開発及び付加価値化への支援
物 流 配 送		単独発注	情報共有化から効率対策	共同発送等の体制整備
	農 林 業			
	建設・製造業 サービス業	流通や手数料の高騰 物流センター方式によりコスト 高・時間的ロス	発送先などの情報共有化 からコスト削減	定期便など情報の提供と共有化 共同発送
販 路 ・ 営 業		独自戦略（単価・顧客）	営業活動・販路開拓	ネット販売・官民共同の営業
	農 林 業	新商品開発と販路開拓 販売価格安価	PR 直販	行政とタイアップした販路開拓や営業活動 ネット販売などの活用
	建設・製造業	販売企画力希薄	営業活動・販路開拓	
	サービス業	独自の顧客にターゲットを絞る	交流事業展開	農林業体験で民宿活用
人 材		将来への不安	人員・人材確保	キーマンを軸とした地域愛を育む人材育成 塾・研修・次世代教育の開催
	農 林 業	高齢化と後継者問題	I・Uターン者の受入 人材育成・研修	研修生から定住者へのシフト対策（I・U ターン者の仲間作り）
		I・Uターン者が定着しない	冬季の雇用対策	町で加工場を立地し雇用対策を図る
		森林価値観希薄	意識改善	環境教育
	建設・製造業	高齢化と後継者問題	I・Uターン者の受入 人材育成・研修	キーマンの発掘・次世代教育
サービス業	人材不足	人材研修・発掘	行政とタイアップした人材研修・育成塾な どの開催	

(2) 調査結果からみた町に求められる役割・機能

項目別企業要望	飯南町に求められる役割・機能
<p>【商品・サービス支援】 商品開発に関する整備・加工場の立地また情報提供など</p>	<p>○既存支援制度の情報提供 ○選択と集中でのきめ細かい支援 ○既存商品付加価値化 ○商品PR ○アンテナショップの開設</p>
<p>【設 備】 融資支援</p>	<p>○既存支援制度の情報提供 ○町独自の資金支援制度の創設</p>
<p>【技術力】 専門的技術はあるが、外部への情報発信する技術は乏しい（事業所PR）</p>	<p>○ITを使った企業PR</p>
<p>【経 営】 ニーズ情報の提供や、商品開発の支援または町内異業種間の交流</p>	<p>○新商品開発の支援（ハードとソフト） ○異業種間の情報交換・交流の企画 ○ニーズ情報などの提供</p>
<p>【生産管理】 新商品開発及び付加価値化への支援</p>	<p>○既存支援制度の情報提供 ○選択と集中でのきめ細かい支援 ○既存商品付加価値化（差別化販売）</p>
<p>【物流配送】 共同配送</p>	<p>○共同物流配送の調査検討 ○異業種間の情報交換・交流の企画</p>
<p>【販路・営業】 ネット販売・官民共同の営業</p>	<p>○独自性を売りにしたPR活動 ○行政の信頼面を活かした営業活動 ○里山コミッションの機能利活用</p>
<p>【人 材】 キーマンを軸として地域愛を育む人材育成塾・研修・次世代教育の開催</p>	<p>○キーマンの発掘・育成 ○I・Uターン者の定住対策 ○人材育成塾・研修・次世代教育の開催</p>

3. 飯南町産業活性化ビジョン策定会議の先進地視察からみた方向性

ここでは、飯南町産業活性化ビジョン策定会議スケジュールにあります視察研修に基づき、先進地事例調査を行った調査内容とその結果について示していきます。

去る、1月27日・28日の両日、町策定会議ワーキンググループメンバーを中心に、岡山県真庭郡新庄村などを視察しました。その結果を報告します。

(ア) 視察先の概要と選定理由

● 岡山県真庭郡新庄村

【概要】

- ① 岡山県北西部に位置し、面積 67.1 km²、人口 1,074 人（H20.3.31）
- ② 明治22年の開村以降、一度も合併に至っていない。
- ③ 出雲街道の宿場町として栄え 100 年を超える古木「がいせん桜通り」が観光地として有名
- ④ 特産品はもち（ヒメノモチ）であり、自然豊かな村としてブナ林面積は岡山県内最大

【選定理由】

- ① 地域おこしの先進的事例に挙げられている
- ② 合併に至らず独自の手法で村おこしに取り組む
- ③ 環境的に飯南町と共通点が多い（中山間地・中国山地麓・県境・高速道（米子道）・森林セラピーなど）
- ④ 国保が黒字（高齢者が元気で暮らせる村）
- ⑤ 上記のことに関連し、将来の飯南町を想定する上で参考となる

● NPO法人大山中海観光推進機構（事務局：米子市旗ヶ崎 理事長：石村隆男氏）

【概要】

- ① Web サイト「大山王国」を中心とした大山広域エリアの観光情報発信事業（鳥取西部から島根県東部）の展開
- ② 大山山麓の8市町村参加、官民協働による大山エリアに目を向けた情報、体験型プログラムを展開
- ③ 自然・歴史・文化・体験などリゾート観光要素を繋ぎ、地域の活性化の鍵となる観光に取り組む

【選定理由】

- ① 地域資源を活かした観光交流産業の取り組みと情報発信
- ② 顧客づくり

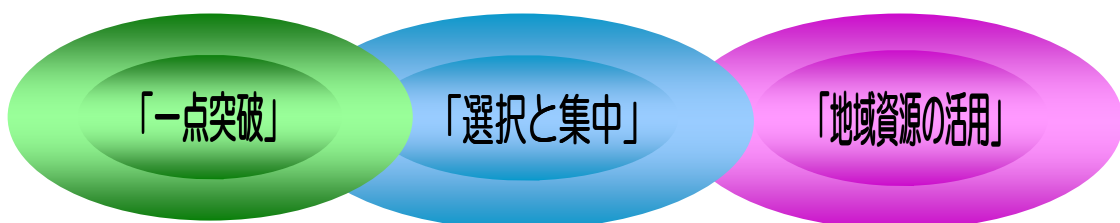
(イ) 視察調査内容

- 岡山県真庭郡新庄村の視察調査内容・・・(施策と取り組み)
 - ① 高齢者が元気で暮らせる産業体系(結果、国保が黒字)
 - ② ヒメノモチ一点突破で産業(6次産業)活性化に成功
 - ③ 一点突破できたのは、「選択と集中」の施策
 - ④ 「選択と集中」が執れたのは、村長のリーダーシップと行動力、行政職員の積極的な行動、行政と住民との強い信頼関係
 - ⑤ 強い信頼関係はお互いが“本気”で“限界”までやり抜く
 - ⑥ “本気”で“限界”までやり抜ける「人づくり塾」を開催

- NPO法人大山中海観光推進機構の視察内容・・・(マニアをつくる観光産業)
 - ① 地元・地域が大好きで、この良さを多くの方に知ってもらいたい、ファンになってもらいたい
 - ② 地域(自然・歴史・文化)を知らずして観光振興はできない
 - ③ 観光客を「リピーター」→「ファン」→「マニア」にしていく
 - ④ 要は、人の心を掴むこと(手づくりマップなど、手づくりからひとの温かみが伝わる)
 - ⑤ 大山を中心に市町村、県境の枠を取り払った広域的な見方、事業展開
 - ⑥ イメージを描き、その中に旬を織り交ぜる
 - ⑦ 遊び心が大切

(ウ) 視察調査内容から見た町に求められる方向性

【方向性】



4. ヒアリング調査及び先進地視察から見た町に求められる方向性と役割

ここでは、企業・事業者訪問を行ったヒアリング調査結果と先進地視察調査内容を基に、産業活性化の方向性と町に求められる役割についてまとめます。

【まとめ】

ヒアリング調査 から町に求め られる役割	先進地視察 から見た 方向性	調査結果からの方向性と役割	
		方 向 性	役 割
<ul style="list-style-type: none"> ○異業種間交換企画 ○きめ細かい支援 ○融資支援 ○情報提供 ○人材発掘・育成 ○定住対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○一点突破 ○選択と集中 ○資源活用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆先ず一つからはじまるプラス産業 ◆選択と集中でのプラス産業 ◆地域資源活用でのプラス産業 	<ul style="list-style-type: none"> ◆施策に対し、本気で共に歩む。 ◆持続させるための人づくり ◆ファンから愛される地域づくり

【方向性】 「一点突破」・「選択と集中」・「地域資源の活用」

【役 割】 「本気の姿勢」・「共同と共創」・「人づくり」

「一点突破」・・・**施策を絞る**

「選択と集中」・・・**施策に向けた予算配分と組織体制**

※先ずは「選択と集中」で、お互いが“本気”で“限界”までやり抜き強い信頼関係を得る必要がある。それと同時に少数ながらも真の人材育成を行政と地域で実践していくことが重要。その根源となるものは地元が好きという“地域愛”である。

5. 飯南町産業活性化の方向性

ヒアリング調査・先進地視察調査からみえた方向性を活かしながら、基本理念である『里山資源を活かした自立型生命地域産業の創出』のもと、次の三つの視点から産業活性化に取り組みます。

飯南らしさのある産業活性化

飯南町は、地域特有である“三源流の清水”と“高原地帯の寒暖”を活かしながら、自然美あふれる“飯南らしさ”を核に独自性のある飯南産業を展開していきます。

付加価値を高める産業活性化

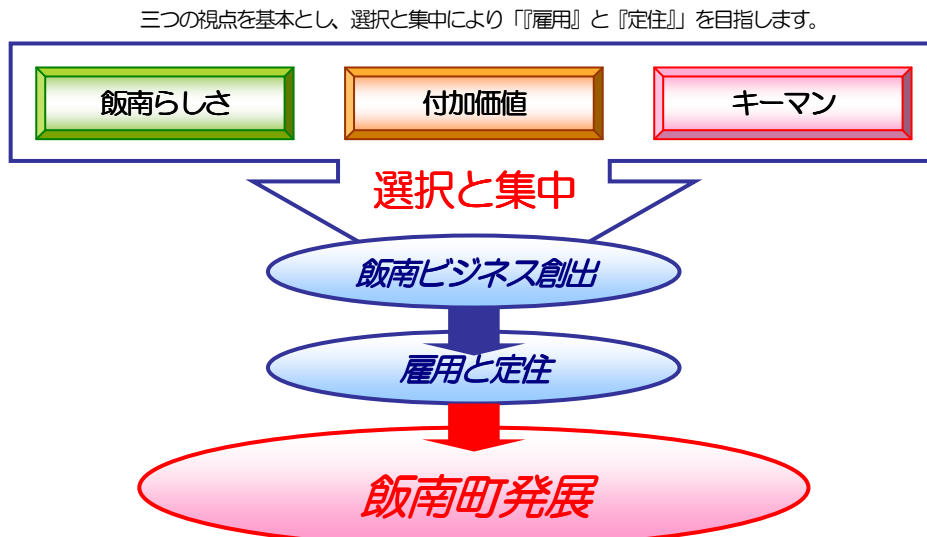
飯南町は、基幹産業である農林業を軸に、清らかな水・寒暖の差がある気候で育まれる産物の質に拘わり、その質に源流の里・高原の里の“イメージ”と“加工”という二つの付加価値を組み合わせ、更なる展開を図ります。

人からはじまる産業活性化

活気あるまちには元気な人の存在があり、活力ある産業の背景にも元気な人の存在があります。わがまちの生命地域産業を担うのも「人」であり、生命地域産業の核である飯南らしさや、付加価値を高めて産業に活かすのも「人」であります。

「人」は産業にとどまらず、このまちを支えて行く意味でも重要な役割を担います。これら役割を担う人材の根源となるものはまさに“地域愛”というほかにありません。

飯南町は、地域愛あふれる「キーマン」の人材発掘を行い、人から人へ、人から次世代へと継承させ、魅力ある生命地域産業を持続可能にしていく地域づくりに努めます。



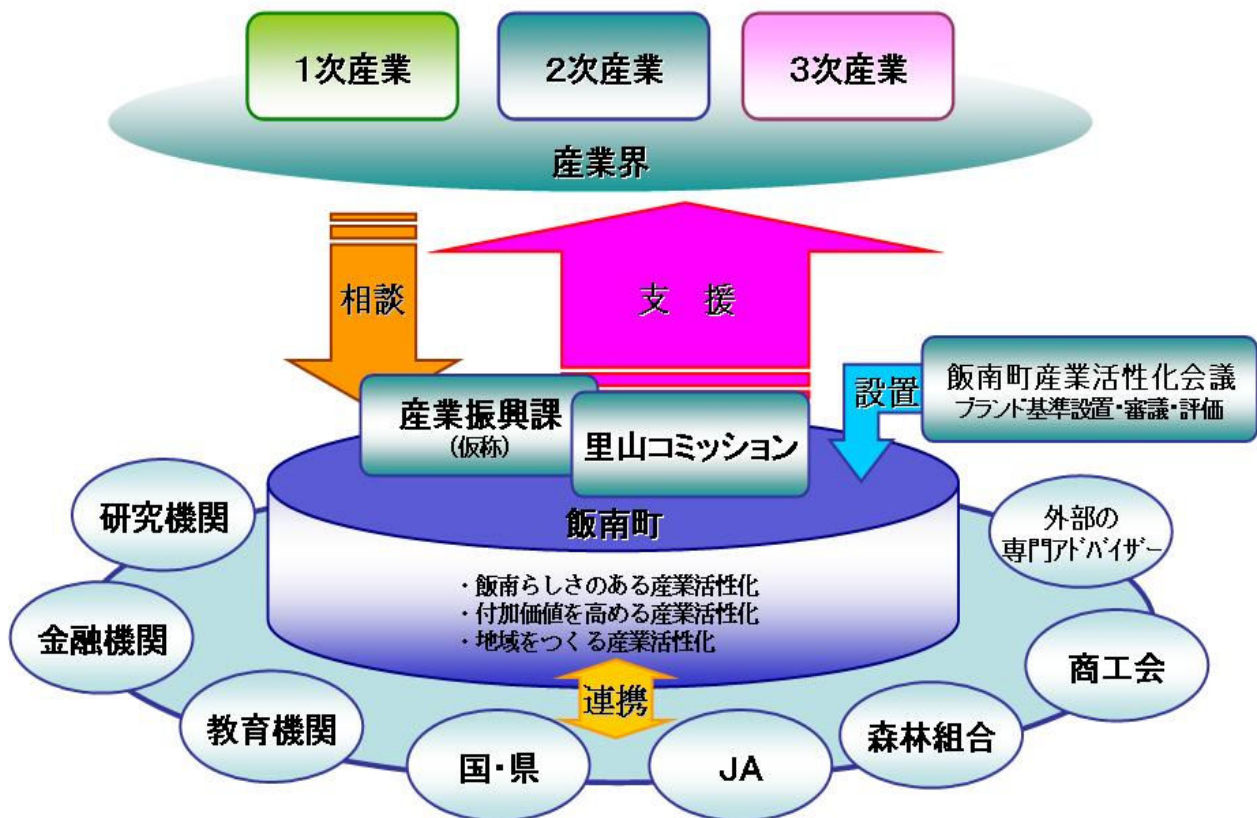
6. 飯南町のアクションプラン

(1) 施策に対する組織体制

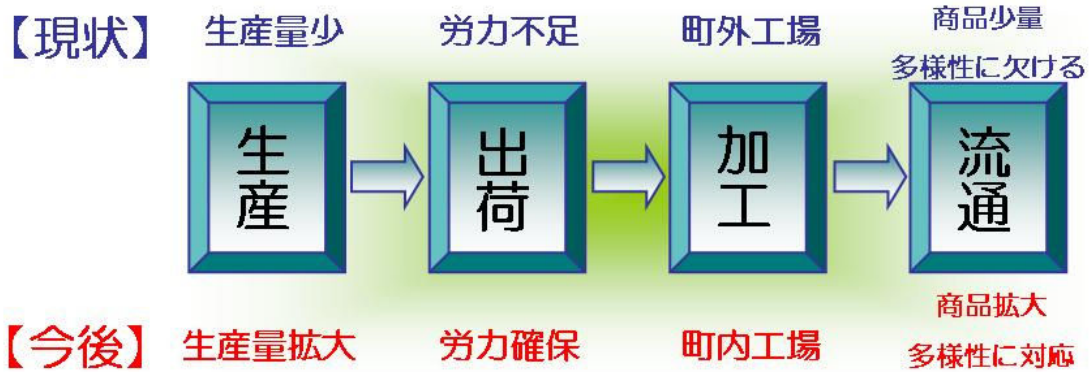
飯南町は、産業界全般にわたって前項に掲げた三つの視点から産業活性化を進めます。その産業活性化へ向けての体制について先ず行政は、1次産業担当課と2次・3次担当課との区別を取り除き、産業界全般の支援を担い可能性、発展・展開に向け躍進することを目的に産業振興課（仮称）を設けます。

また、産業施策に対する評価・審議・検討するセクションとして、町外有識者（専門家）及び町内産業団体等で構成する「飯南町産業活性化会議（仮称）」を設置し、産業活性化ビジョンの進捗状況の確認また、商工会・森林組合・JA 等と連携していきます。その中では、新商品の開発・技術の高度化・人材の育成等産業活性化への推進策を、研究機関などのアドバイスを受けながら進めていただきます。この「飯南町産業活性化会議（仮称）」を町に設置することで、行政が企業等へのワンストップサービスの窓口として情報提供・支援を積極的に行うことができます。

これらの体制から、産業界ニーズへの迅速な対応や支援を集中的に行い、民主導型を目標に選択と集中で産業活性化を進めます。

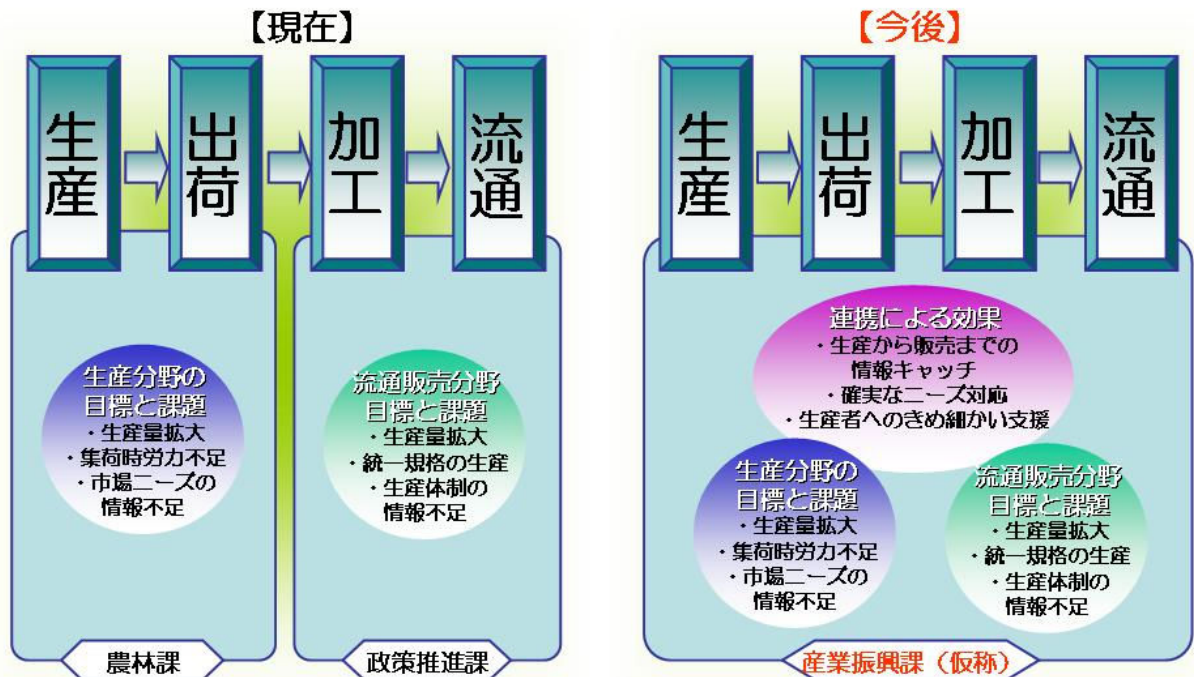


具体例



施策に向けた一貫体制で信用・信頼を得る

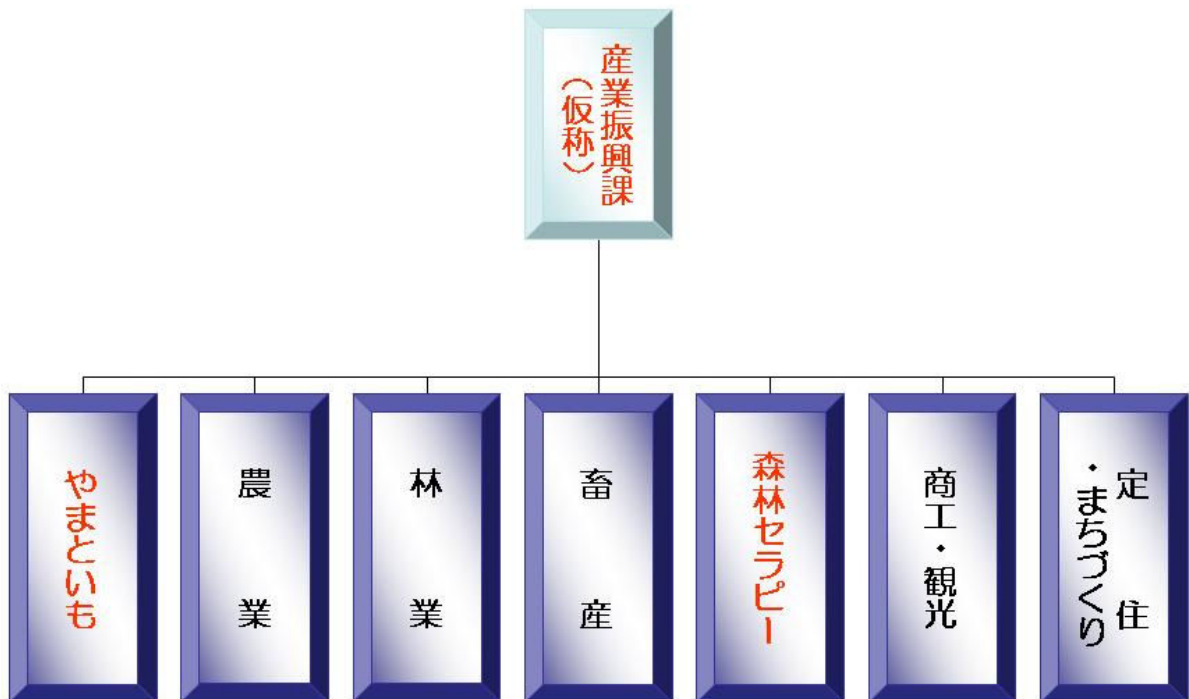
**外貨獲得 雇用創出
持続産業・勝ち残り産業**



① 町の体制

町は、従来の縦割り体制からグループ化体制にシフトさせ、内部の連携を図り産業部門の総合窓口として役割を担い、産業に携わる事業者に対して生産から販売、引いては人材に至るまで一貫した体制で支援します。

よって、産業界全般の支援を担い可能性、発展・展開に向け躍進することを目的に産業振興課を設けることで、スピーディーにニーズ対応ができ事業者側の「選択と集中」の加速が増します。



【やまといも】

- 選択と集中施策で、「やまといも」と言えば飯南、飯南と言えば「やまといも」をめざし、生産から販売までの一貫体制で、あらゆるニーズに対応し信用と信頼を勝ち取り一つのブランド化をすすめ、最終的には町内加工により付加価値を高め生産者の収益拡大につなげます。

【農業】

- 高原地帯特有の寒暖の差を活かした安心安全な農作物の推進に努め、品質の高さを市場へアピールしていくことでブランド化を図り、飯南町＝高原野菜のイメージを定着化させ、高原の里飯南町を世に広め産業活性化へつなげていきます。

【林業】

- 森林を「資源」として活用するべく作業道整備をすすめ、木材活用・機能性活用など幅広い活用方法・可能性を見出し生命産業の母体となる森林の活用と保全を進めていきます。

【畜産】

- 全国的にも知名度の高い奥出雲和牛の生産拡大を図り、市場ニーズに応える基盤体制の整備を進めます。また、農林業とのタイアップを図り堆肥の有効活用・林間放牧など1次産業での循環から生まれる飯南産業をすすめていきます。

【森林セラピー】

- 癒し効果の高いきめ細やかなプランづくりを行い、町内の宿泊業・レストラン業と連携を図り、滞在型事業を進めます。この滞在型メニューへ観光産業を取り入れることで、交流からはじまる飯南ファンとして、飯南町応援団の加入を促します。また、森林セラピーの品質の向上とブランドの確立を行ない、継続可能な産業として定着を図っていきます。

【商工・観光】

- 商工業の現状把握をし、発展・展開を目標に商品の開発や観光産業とのマッチングまたは、農商工連携も視野に入れた複合産業への展開を見出し、外貨獲得を図っていきます。

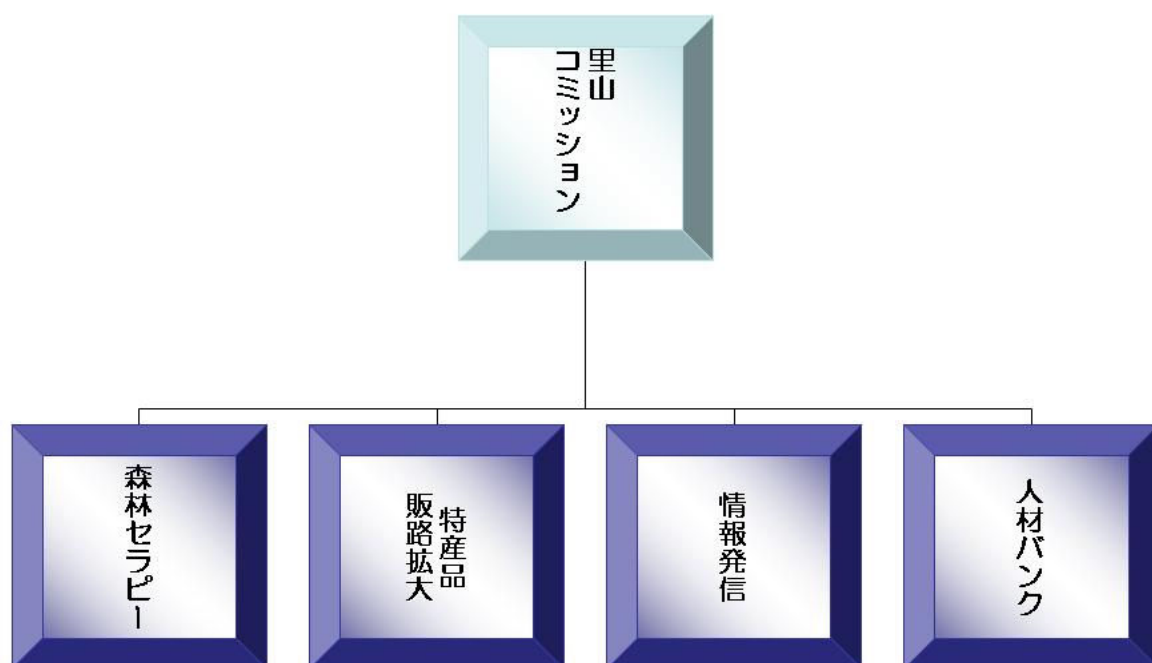
【定住・まちづくり】

- 産業を持続するため又は、更なる発展を見出すための人材発掘・育成につとめ、産業振興課（仮称）が目指す複合産業をPRすることで体験や交流を図り、飯南ファン・飯南マニアをつくり、引いては飯南定住と施策をすすめていきます。

② 里山コミッションの役割

里山コミッションは、産業総合窓口として役割を担う産業振興課（仮称）と協働でまちづくりに取り組み、官と民との中間的な領域に活動を広げ、地域活力の低下・多様な住民サービスに対応できるきめ細やかなサービスを提供する組織として役割を担います。

里山コミッションは、その役割を果たすべく総合的な地域マネジメント組織としてまちづくりの推進母体として活動を展開していきます。



【森林セラピー】 → 森林セラピーの実施機関として、ガイドの確保・育成と質の向上（医療機関連携）など顧客増加に努めます。

【特産品販路拡大】 → 町産特産品の販路拡大及び顧客の獲得を図って行きます。

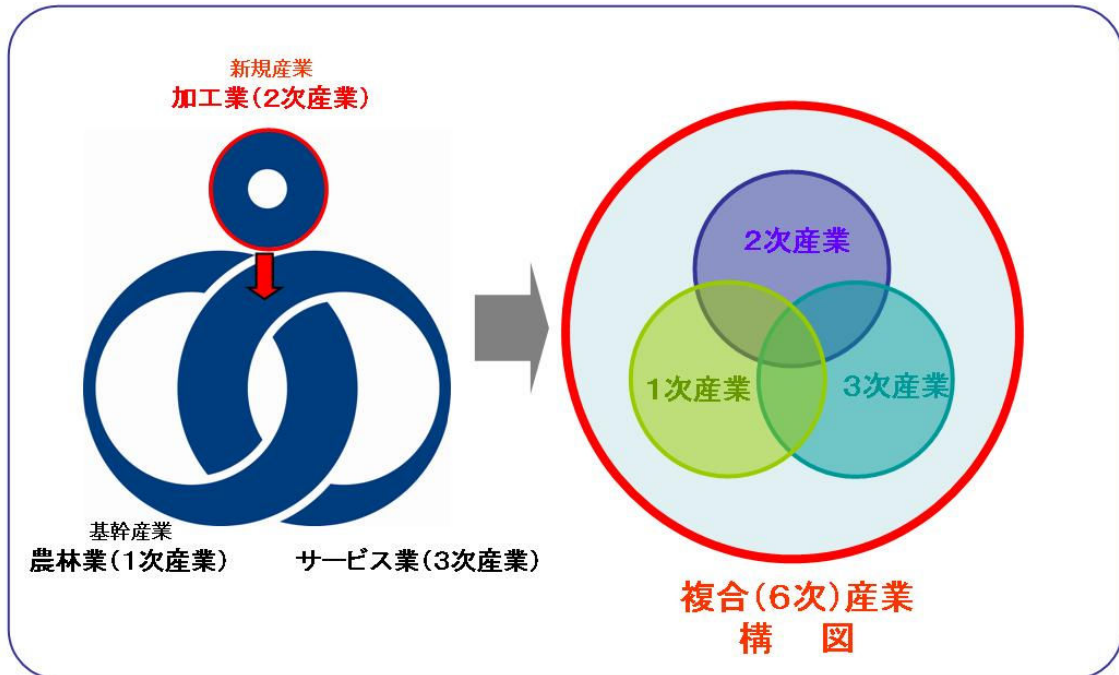
【情報発信】 → 主にWeb管理を行いながら、外部の飯南ファン育成と飯南マニア拡大に努め、イベントや交流企画の立案を行います。

【人材バンク】 → 地域人材発掘から育成まで携わり、協働に向けたまちづくりに取り組み生活支援産業の育成を図ります。

(2) 施策

① 全般施策

(町章から施策をイメージ)



飯南町は、基本理念である『里山資源を活かした自立型生命地域産業の創出』のもと、産業界全般にわたって三つの視点から選択と集中の方向性で産業の活性化を進めます。その選択と集中をどう施策に反映するべきか。それは、わがまちの基幹産業である農林業を核とすることで、『里山資源を活かした自立型生命地域産業の創出』に導きます。基幹産業の農林業（1次産業）は環境（清流・寒暖・森林）を生かした高品質や機能性を売りにし、そこに外貨獲得要素の多いサービス業（3次産業）とを結び付けることで、産業に波及効果をもたらす循環型産業が生まれます。また、「加工」という付加価値を組み込むことにより、農商工連携による新たな商品が生まれ産業分野の展開と雇用の拡大につながります。

飯南町は、この複合（6次）産業を目標に掲げ、消費者ニーズに応えられる持続可能な産業の創出をめざします。

② 産業活性化のための段階施策

中国自動車道路「尾道松江線」開通は平成20年代後半とされ、この開通は飯南町の産業に大きな影響があると推測されます。「待ちの姿勢」ではなく、飯南町から町外・県外へ積極的に出向く「攻めの姿勢」により産業の拡大と創出を図ります。そのために、次の段階施策を短期間で行なっていきます。

〔第1段階〕

市場調査

アンテナショップ等を都市に出店し、市場のニーズを把握し、ニーズに合わせた新商品の検討や商品開発による市場開拓を進めます。

〔第2段階〕

生産・加工

市場ニーズに基づいた新商品を開発し、安定生産から付加価値を高めた加工まで進めていきます。

〔第3段階〕

雇用・定住

小規模生産・加工から、雇用と定住に繋がる産業として本格稼働していきます。

③ ブランディング（ブランド化）

飯南町の持つたくさんの魅力を情報発信し、市場・消費者に認知してもらうには、統一した名称を用いることが高い効果が得られると考えられます。さらに、統一された名称が「安全」「安心」「美味しい」「自然豊か」といったイメージを広げ、町産品や飯南町そのものに対してより良い影響を与える好循環を築き、製品の価値または生産者等の販売意欲を高めます。

このため、町内外の方の意見を聞きながら統一した名称を早急に定め、その定着を図ります。

〔例〕

- ・ やまといも → 「〇〇高原」 やまといも
- ・ 米 → 「〇〇高原」 米
- ・ りんご → 「〇〇高原」 りんご
- ・ 舞茸 → 「〇〇高原」 舞茸
- ・ かつ丼 → 「〇〇高原」 丼



④ 段階別の活動一覧

④ 段階別の活動一覧		目標（時期別）			初期（1～2年） 選択と集中での 飯南ブランド構築		短・中期（2～5年） 経営支援の実践・充実 複合産業にむけた展開と拡大		中長期（5～10年） 成長評価をもとに更なる 事業展開と分野拡大	
方向性（活動内容）	飯南らしさ	里山資源の活用	基幹産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業所訪問による事業ニーズと現状の把握 ■ 基幹産業を核とした複合産業の創出 ■ 技術指導や生産普及に対する支援 ■ 地元企業や事業所、各種団体の商品や技術のPRと販路開拓 ■ WEBやCATVなどの活用による情報発信 ■ 異業種交流組織の設立支援、拠点提供、活動支援 ■ 事業所・各団体間の取引促進・コーディネート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商品開発支援制度のコーディネートサポート ○ 核となるブランド商品の選定と安定化供給 ○ 普及員やJA指導の下、高品質生産でのブランド化 ○ 複合産業を核とした循環プログラムの軌道づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活化会議のもと商品・手法の選定を行い経営体制の整備と組織化 ○ 生産組合の組織強化 ○ 雇用拡大と定住活動 ○ 官民一体となったPR活動 ○ 官民共同営業活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商品定着化 ○ 異業種との連携のもと、信用信頼のサービス提供と顧客確保 ○ 普及員の育成と承継 ○ 飯南ブランド（資源）を活用した企業との経営協定締結 ○ 外交的な企業間または顧客とのネットワークの拡大 ○ 更なるニーズ情報獲得とそれに対する事業展開支援 			
		情報・交流	企業間交流ネットワークの構築・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保有技術、ノウハウを活かした新分野進出の促進 ■ 新分野進出による経営の多角化・構造転換の促進 ■ 業務提供や共同出資などによる新分野進出の促進 ■ 農商工連携の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異業種企業ネットワークを活かした商品開発・技術開発、各種ブランドのコーディネート ● 外部企業や商社とのビジネスマッチング支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本格的な業務提携や共同出資による新分野進出の支援・コーディネート ○ 異業種産業の商品定着化に対する経営の支援 ○ 飯南ブランド（資源）を活用した企業との経営協定締結 ○ 農商工連携体制確立並びにサポート 				
飯南町産業活性化の方向性	付加価値を高める	経営・技術	新産業創出・新分野進出の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 国県と連携した支援（可能性の把握と情報収集） ○ 町内事業所・各種団体の相互の役割分析から農商工連携に向けた組立と組織化 ● 農商工連携セミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異業種企業ネットワークを活かした商品開発・技術開発、各種ブランドのコーディネート ○ 農商工連携を中心とした事業所・各種団体の役割分析から実践に向かう活動のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複合産業のシステム構築 ○ 経営団体に対する定期的なニーズ情報提供とフォローアップ 				
		立地	企業立地の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 市場ニーズの情報収集それに対する経営・運営の検討と組織化 ● 経営手段に合った技術習得と設備の研究 ○ 立地に向けたハード整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営・運営の安定化支援 ○ 営業活動（外部企業商品マッチング） ○ 定期的なニーズ把握とフォローアップ ● 町内商品とのマッチング支援 ○ 商品ブランドの定着化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業能力開発機関等と連携した人材育成教育 ○ 複合産業システムづくりと同時に就労者の募集 ● 飯南マニアの拡大と合わせ、定住者獲得 				
飯南町産業活性化会議の活動	人はしかめらめる	人材育成・人材発掘・人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職業技能や専門技術・技能知識習得に向けた学習機会提供 ■ キーマンとなる人材の発掘と技術の継承 ■ 技術継承のため後継者・担い手確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業能力開発機関等と連携した人材育成教育 ○ 複合産業システムづくりと同時に就労者の募集 ● 飯南マニアの拡大と合わせ、定住者獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キーマンを中心とした職業能力及び新メニュー開発の検討会議を持ち更なるベースアップを図る 					
		飯南町産業活性化会議の活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飯南ブランドの基準設置・評価・審査 ○ 産業施策に対する評価・審査・検討 ○ 異業種同士の連携強化 ○ 有識者を交えての発展と展開 ○ 有識者を交えての専門分野のサポート ○ 農商工連携に向けた具体的な協議 ○ 異業種同士の連携強化 ○ 企業情報把握 ○ 企業のデータベース化 ○ 人材育成 ○ 産業支援制度の創設 							
行政の活動										

⑤ 特定プロジェクト

この産業活性化ビジョンは、飯南町総合振興計画にある重点プログラムの産業分野をもとに策定していますが、今回の産業活性化ビジョンはアクションプランとしての位置づけが主であります。

よって、ここで示すプロジェクトは飯南町が今後、産業活性化ビジョンの理念に基づき、基幹産業を核とした複合産業の実現に向け「選択と集中」の施策から、実践可能な特定プロジェクトとして位置づけし、次の二つのプロジェクトについて戦略を建てました。

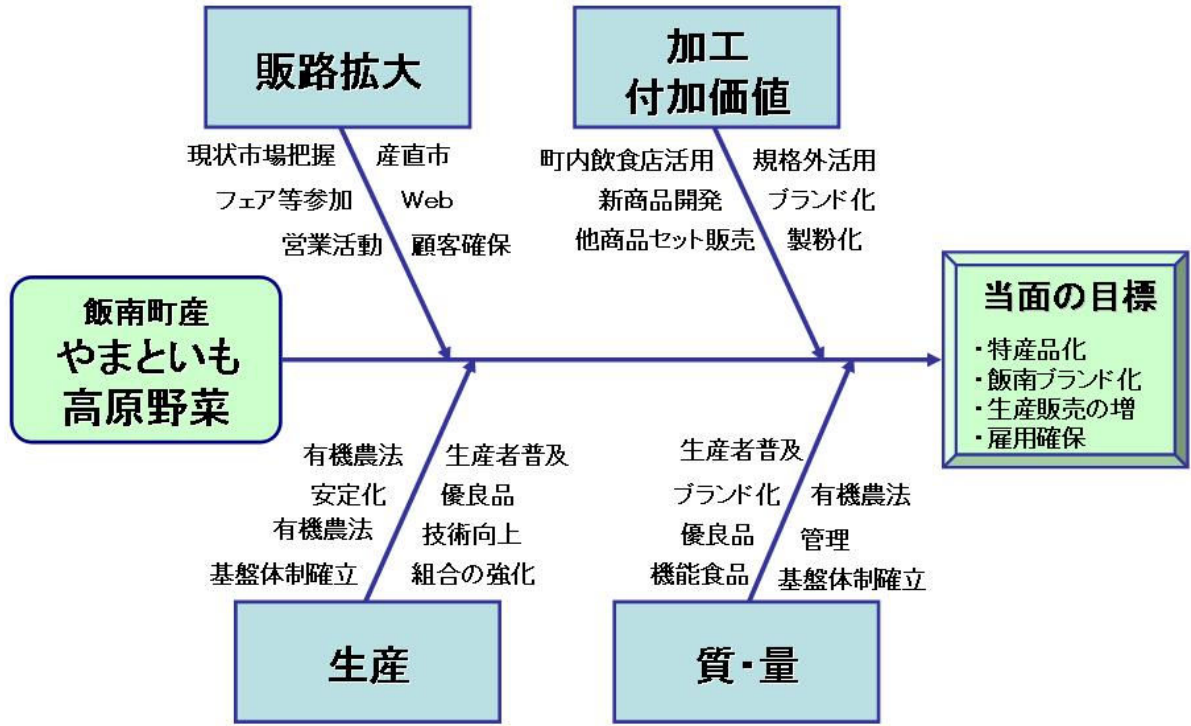
先ずは・・・

◆ やまといも・高原野菜編

◆ 森林セラピー編

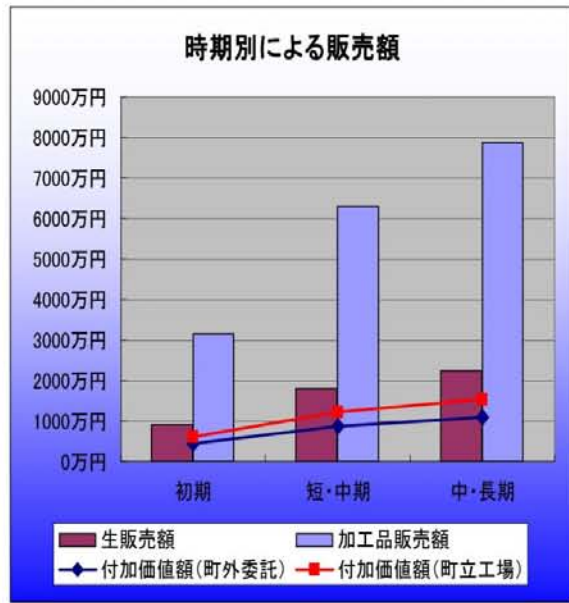
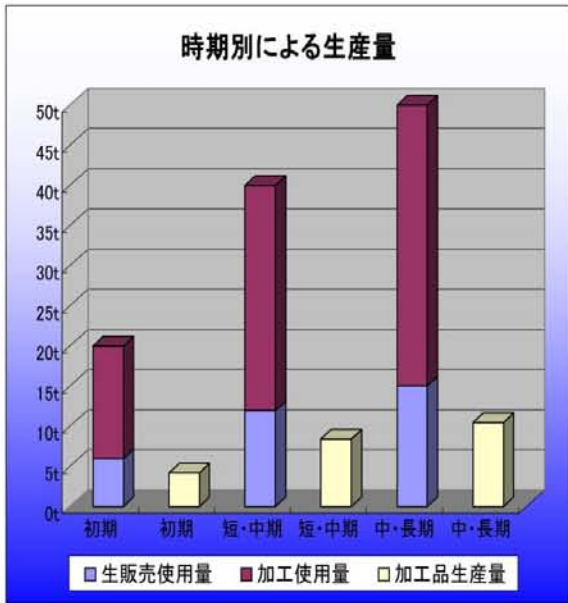


◆ やまといも・高原野菜編



【やまといもを例にした数値目標】

別 区分（項目）		目標（時期）	
		初回（1～2年）	短・中期（2～5年）
やまといも	方向性	ブランド定着化と生産量拡大	付加価値を活かした事業展開と拡大
	具体策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新町飯南になってのイメージ・知名度アップを狙いブランド化 ○ 普及員の指導により高質化をめざした手法の統一 ○ 連作障害防止のための団地計画 ○ 信用と信頼の確保に繋がる品質・生産量の安定化 ○ ブランディングの確立とアンテナショップ等によるニーズ調査 ○ 栽培指導員の雇用 ○ 新規圃場の確保と栽培方法の検 ○ 共同選別所の整備、栽培農家確保と栽培面積拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市場ニーズ対応での需要拡大と規格外品有効活用 ○ 市場ニーズ把握からの付加価値化の検討 ○ 雇用確保と就労者の拡大 ○ Web・産直市でのPR・販売促進 ○ 規格外品有効活用 ○ 加工品の商品開発 ○ 町内販売体制の充実とwebサイト販売、各種イベント出品 ○ 加工場整備による雇用の創出
	原生産量①	20t	40t
	生販売使用量②	6t	12t
	加工使用量③	14t	28t
	加工品生産量④ (③×30%)	4.2t	8.4t
	生販売額⑤ (②×1,500円)	900万円	1800万円
	加工品販売額⑥ (④×7,500円)	3150万円	6300万円
	加工付加価値額 (町外委託)	440万円	880万円
	加工付加価値額 (町立工場)	610万円	1230万円
			中・長期（5～10年）
			基幹作物としての生産量と品質保持
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 顧客の信頼・信用を確保するため品質確保 ○ 市場ニーズに対応しうる生産量拡大と生産者の拡大 ○ 外部からの就労者募集を募り定住化 ○ 生産から販売までの一環体制整備 ○ 新規就農者支援と農業経営基盤の安定



加工した場合の付加価値額（規格：優・良150kgを例に）実績より算出

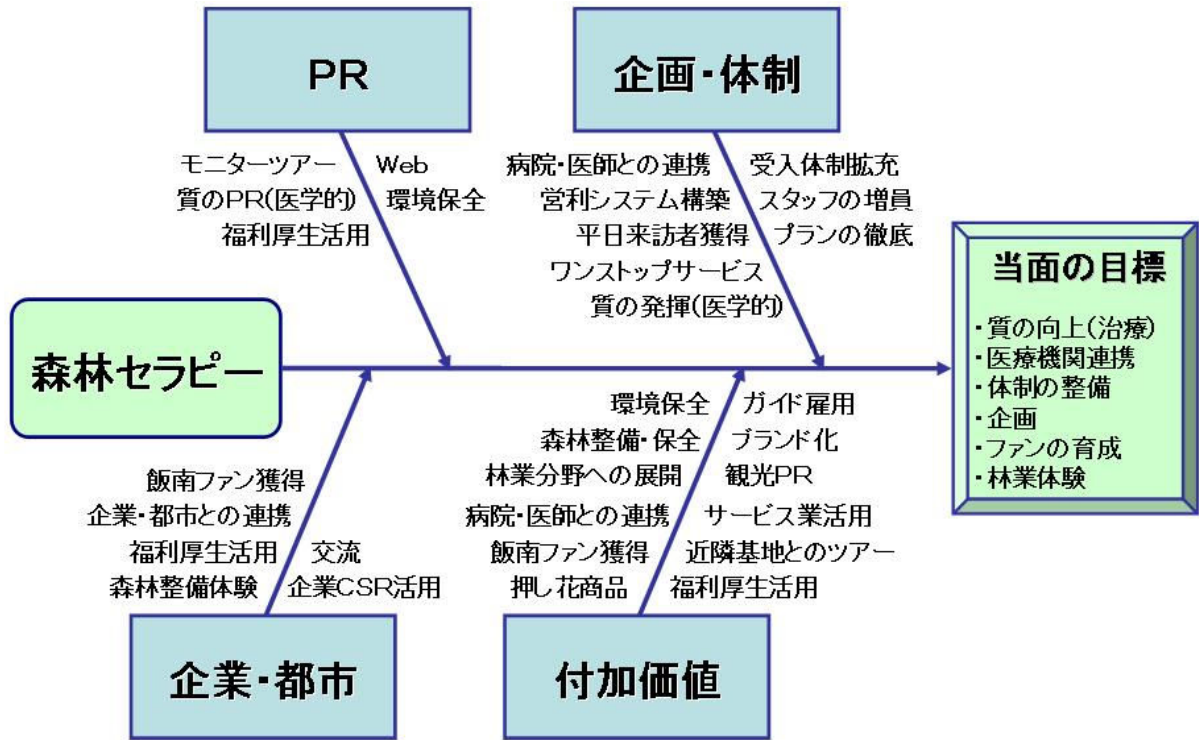
150kgを製粉加工した場合33.9kgの製粉

	数量	単価	加工経費	金額
生販売	150kg ×	525円/kg	=	78,750
町外工場加工委託	34kg ×	7500円/kg	- 128,415 =	125,835
町立加工場	34kg ×	7500円/kg	- 109,725 =	144,525
付加価値（町外工場委託）				47,085
付加価値（町立工場）				65,775
kg当り付加価値	町外委託			314
	町立工場			439
14t当り付加価値	町外委託			4,396,000
	町立工場			6,146,000
28t当り付加価値	町外委託			8,792,000
	町立工場			12,292,000
35t当り付加価値	町外委託			10,990,000
	町立工場			15,365,000

優・良販売額 525円/kg
製粉加工販売額 7500円/kg

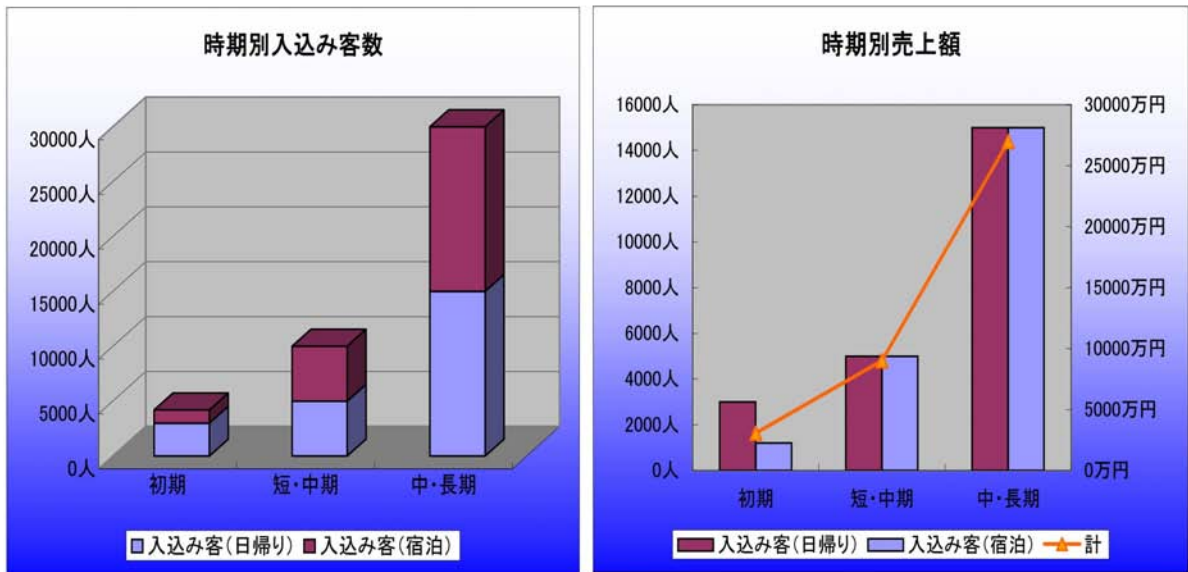
※付加価値の「重要性」・「必要性」が証明でき、結果として生産者に潤いをもたらす産業活性化の核となりうる複合産業への展開を導きます。

◆ 森林セラピー編



【森林セラピーを例にした数値目標】

区分(項目)		目標(時期別)		
		初期(1~2年) 医療的分野からの 森林セラピーの活用	短・中期(2~5年) 医療的分野へ進めるための ガイド確保	中・長期(5~10年) セラピーを継続的に進めるための 森林保全
森林セラピー	方向性	○ プランの徹底	○ 企業福利厚生メニュー活用PR	○ セラピーを継続的に進めるための森林保全
		○ 受入体制・スタッフの増員	○ 専門ガイドの雇用(保健師等)	○ セラピー効果の評価方法の確立
	具体策	○ 本来の治療機能を発揮できる医療機関との連携検討	○ 医療機関・医師との連携	○ 町内医療機関との連携による利用者の増加
		○ 平日来訪者の獲得	○ 顧客の確保	○ セラピーを核とした飯南ファン獲得と育成
		○ 森林セラピー食事開発、温泉の活用、宿泊所の育成	○ 企業福利厚生から職員研修・コミュニケーション研修へと進める	○ 企業CSR(社会的貢献)の導入で森林整備の労力確保
		○ 旅行業登録、スタッフ雇用、ガイド育成と増員	○ 専門ガイド(保健師・看護師)の育成と雇用	○ 企業の食堂などへ農産物利用促進、社員への農産物販売
		○ 医師との連携手法確立として医師のいる町民向け森林セラピーを実施	○ 医師の指導によるメニュー・プラン構築	○ 森林セラピードックの実施
		○ 企業福利厚生の一環として導入を進める	○ 各種イベント・新聞等媒体への掲載、リピーター確保のためのDM送付	○ 数値的根拠に基づいた癒し効果を増進させる基地整備
	計	4200人	10000人	30000人
	入込み客(日帰り)	3000人	5000人	15000人
入込み客(宿泊)	1200人	5000人	15000人	
計	3060万円	9000万円	27000万円	
販売額(日帰り)	1500万円	2500万円	7500万円	
販売額(宿泊)	1560万円	6500万円	19500万円	



森林セラピーは、**医学的科学的根拠（エビデンス）**に基づいた森林の新たな産業おこしとして進められている。現在の実験結果では、NK細胞（ナチュラルキラー細胞）の活性によるガンの抑制効果やリラックスした際に活動する副交感神経の活性化が認められており、国民の健康志向の高まりに併せてニーズも高まっている。

また、近年の社会情勢の不安定さから、企業では中心となる20～30代の企業戦士が精神的疾患により休職する状況になっている。企業としてもこのような社員を抱えないようにするためのメンタルヘルスの受け入れの場を求めており、飯南町森林セラピーは大変追い風となっている。

だから、企業はただのツーリズムでは理解されない。社員のためとなる根拠（エビデンス）をもつ森林セラピーが受け入れやすい・・・協定等締結し福利厚生の一貫として取り入れやすい



【今後】

- 協定締結後、連携を密にして、^{※1}CSRや会社でも健康づくりのため食堂などに当町の農産物を提供。また家庭でも社員が健康づくりをおこなうため、農産物販売を行っていく。
- CSRを活用して森林組合と協働による森林整備体験ツアー等を企画し、環境活動から飯南里山整備を図り、主伐適期を迎える人工林の資源有効活用へ向けての労力提供を頂く。

※CSRとは：企業の社会的責任（企業が利益を追求するのみならず、組織活動が社会へ与える影響に責任を持つ）

【結果】

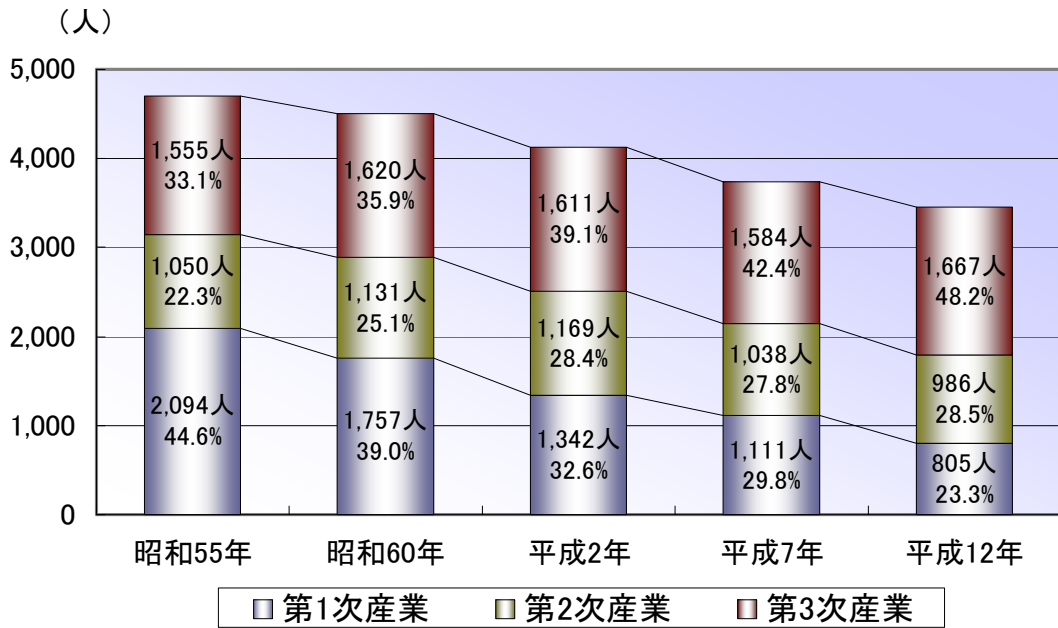
- CSRにより飯南町は、企業から金銭的援助または労働の提供を頂き、森林保全や森林整備を進めることができます。これらから環境施策の基盤整備を図り、カーボンオフセット（炭素の相殺）効果を活用した企業との排出権取引締結や、農産物にカーボンフットプリント（炭素排出量表示）を表示し他地域との差別化を図り、「環境にやさしいまちの安全・安心な食べ物」を売りに産業活性化に向けての波及効果が期待できます。
- また、化石燃料の代用となる木質バイオエネルギー活用を推進し、町内で使用される燃料のエコ転換を進め、飯南町版循環型産業が生まれます。
- これらにより、初めて森林が資源として活かせ、セラピーから里山資源活用への効果を見出しに行くことができます。



**飯南町は今後、里山資源を生命地域産業の資源として位置づけ、
「一点突破」「選択と集中」「地域資源の活用」の方向性から、
雇用と定住を生み、町の発展を進めていきます。**

《参考》

統計データ

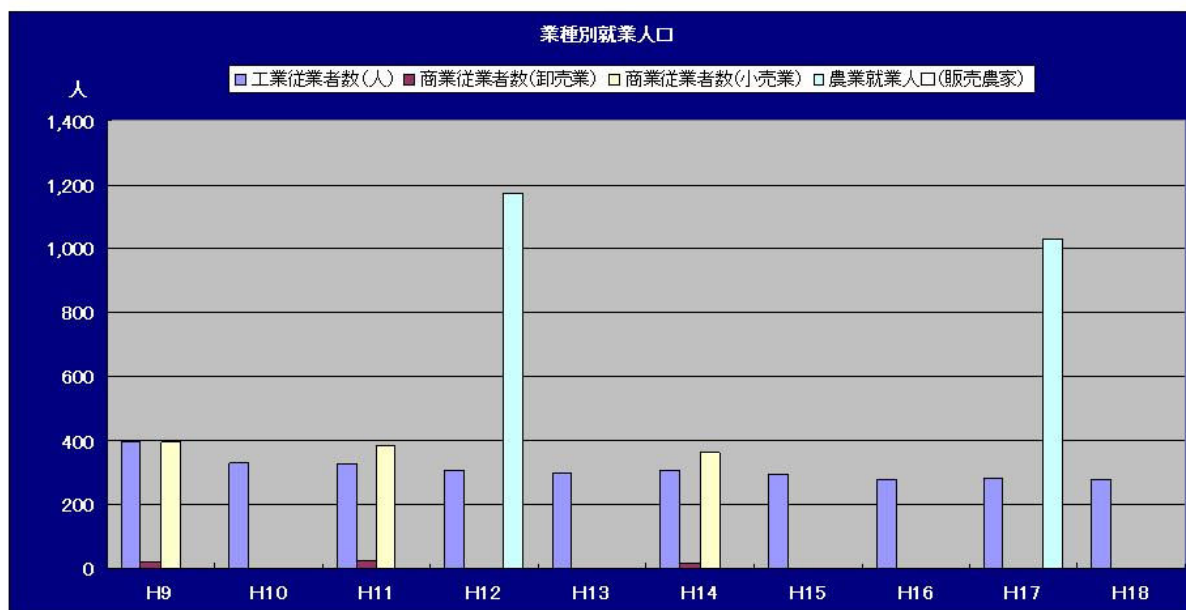


		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
第1次産業	人口	2,094	1,757	1,342	1,111	805
	就業者数	構成比	44.6%	39.0%	32.6%	29.8%
第2次産業	人口	1,050	1,131	1,169	1,038	986
	就業者数	構成比	22.3%	25.1%	28.4%	27.8%
第3次産業	人口	1,555	1,620	1,611	1,584	1,667
	就業者数	構成比	33.1%	35.9%	39.1%	42.4%

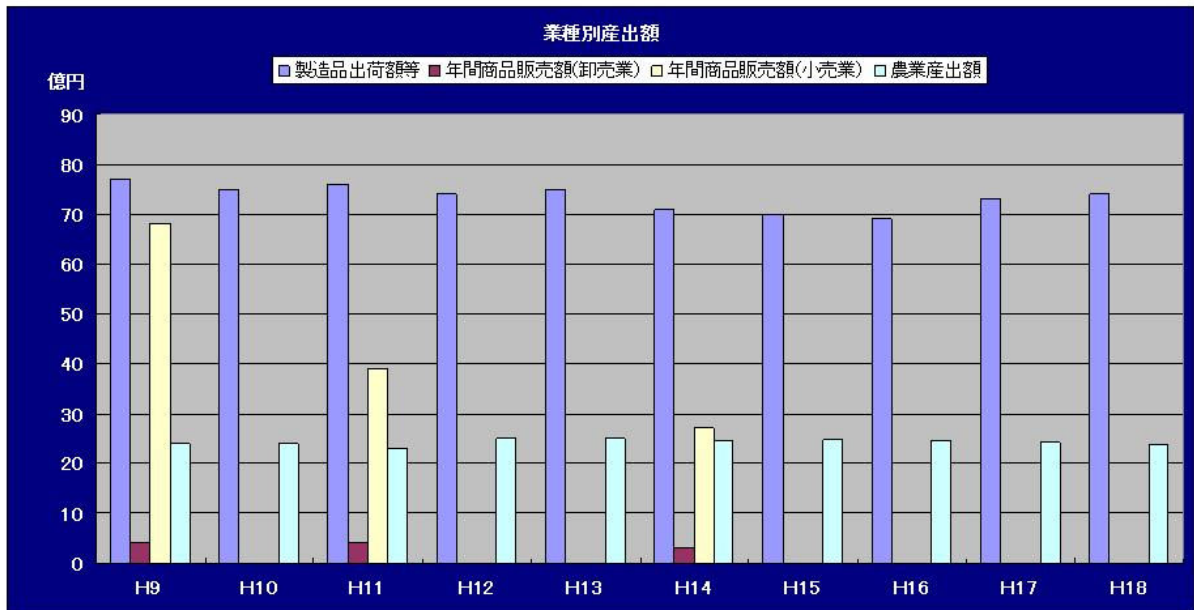
◆産業別就業者数(島根県統計書)

産業別		S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
総数	島根県	405,146	415,109	414,268	402,188	406,032	388,289	366,718
	飯南町	4,806	4,699	4,509	4,122	3,733	3,458	3,099
	飯南町/県	1.19	1.13	1.09	1.02	0.92	0.89	0.85
	対H9	100	98	94	86	78	72	64
第1次産業	島根県	118,438	93,217	80,479	62,891	55,667	40,896	37,109
	飯南町	2,565	2,094	1,757	1,342	1,111	805	720
	飯南町/県	2.17	2.25	2.18	2.13	2	1.97	1.94
	対H9	100	82	68	52	43	31	28
	就業者割合	53.4	44.6	39	32.6	29.8	23.3	23.2
第2次産業	島根県	104,811	120,467	125,028	126,264	123,299	112,631	93,085
	飯南町	810	1,050	1,131	1,169	1,038	986	779
	飯南町/県	0.77	0.87	0.9	0.93	0.84	0.88	0.84
	対H9	100	130	140	144	128	122	96
	就業者割合	16.9	22.3	25.1	28.4	27.8	28.5	25.1
第3次産業	島根県	181,897	201,425	208,761	213,033	227,066	234,762	236,524
	飯南町	1,431	1,555	1,621	1,611	1,584	1,667	1,600
	飯南町/県	0.79	0.77	0.78	0.76	0.7	0.71	0.68
	対H9	100	109	113	113	111	116	112
	就業者割合	29.8	33.1	36	39.1	42.4	48.2	51.6

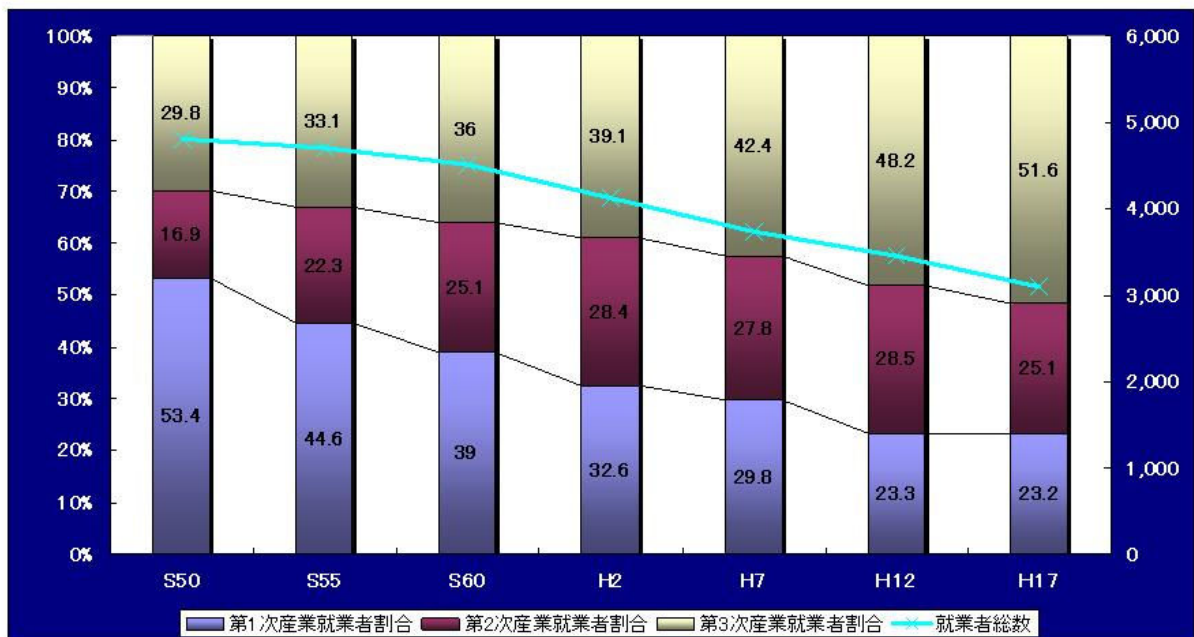
グラフで見る就業別人口



グラフで見る業種別産出額



グラフで見る飯南町産業の 就業者割合



ヒアリング調査

飯南町企業等ヒアリングシート

企業等名		(業種)	訪問者氏名		訪問日	月 日 : ~ :		
概要	代表者		対応者氏名					
	従業員数	正社員 人、パート 人	本社住所					
	主要事業内容		会社住所					
	主要品目		電話・FAX	(0854) -	fax (0854) -			
	得意分野・技術		売上高推移	H17	百万円	利益状況	H17	百万円
	創業・資本金	年 月 日創業 (資本金) 百万円		H18	百万円		H18	百万円
	経営理念			H19	百万円		H19	百万円
企業の状況(業界動向を含めて)				会社の強み・弱み				
				【強み】		【弱み】		
現状の経営課題				対応策				
【キーワード:売上減少・受注減少・設備投資・商品開発・技術開発 生産管理・品質管理・在庫管理・人材育成・資金確保】				【キーワード:新商品開発・新技術導入・ネット調達・産学官連携・異業種 交流・共同受注・小ロット対応・在庫削減・IT対応・OEM強化・ 脱下請・専門人材・資金調達・アウトソーシング・共同配送】				
今後の経営戦略・事業展開				具体策				
【キーワード:既存市場の競争力強化・既存技術を活かした事業拡大 新分野への進出(事業縮小)・経営統合(撤退)】								
(主要仕入先・外注先/住所)				(流通チャネル・販売先・納入先・直販/住所)				

仕入～物流～販売プロセスにおける課題	
自社内の生産プロセス・製造工程等(現状)	
自社内の生産・製造プロセスの課題	
新規雇用について	
どんな支援をして欲しいか	
これまでの活用した支援策とその効果(公的機関等)	支援制度等への要望・意見
行政に対する意見・要望	
訪問企業・経営者の特徴及び印象並びに協力体制など	
活性化ビジョンに反映すべき事項	

ビジョン策定会議スケジュール

飯南町産業活性化ビジョン策定会議スケジュール

年月	会議等	場所・担当者など	備考
20.7	要綱公布(8日) 委員等依頼(9日) 第1回策定会議(23日15:00～) (策定委員会・ワーキング会議会議合同) 委嘱書交付・要綱説明・スケジュール調整 ヒアリングメニューシート作成	赤名庁舎 (町職員)	
20.8	WG会議町内視察 (ガルテン・スキー場・県民の森・赤名峠など) 第1回WG会議 座長選任・今後の進め方・現状データ説明 事業所等ヒアリング (誘致企業・建設業・農業法人・認定農業者・ 商店・JA・森林組合など)	町内 赤名庁舎 (町職員…課長・WG職員)	2008年8月20日
20.9	研修会(講師 矢野プロデューサー) 第2回WG会議(地域資源の掘り起こし) 事業所等ヒアリング・まとめ	中山間研究センター 赤名庁舎 (町職員)	2008年9月26日
21.1	視察研修 住民一体の産業施策と特産品販売戦略先行事例 調査	岡山県新庄村	2009年1月27日
	視察研修 自然を核とした広域観光圏先行事例調査	鳥取県米子市 「NPO法人大山中海観光 推進機構 大山王国」	2009年1月28日
21.2	第3回策定会議(報告書町長提出・説明)	赤名庁舎	
平成21年2月12日	視察報告・検討	赤名庁舎	
平成21年2月13日	第3回WG会議(報告まとめ) 原案・日程確認・その他	赤名庁舎	
平成21年2月18日	原案策定(町長)(矢野P)(安井課長)	県庁	
平成21年3月6日	第2回飯南町産業活性化ビジョン策定会議 第4回飯南町産業活性化ビジョン策定会議WG	CATV飯南局	
平成21年3月24日	議員説明及び意見聴衆	赤名庁舎 会議室	
平成21年3月27日	第3回策定会議(WG報告・意見交換) 町長報告書受渡(16:00～)	赤名庁舎	
平成21年3月27日	報告書決済・公表		

ビジョン策定会議メンバー表

飯南町産業活性化ビジョン策定委員会委員名簿

団体名	所属・役職	氏名	備考
飯南町商工会	会長	後藤 英夫	
雲南農業協同組合	常務	和田 幹雄	
飯石森林組合	組合長	立石 幸	
島根県	商工労働部 産業創出プロデューサー	矢野 仁	
	商工労働部 産業振興課 課長	安井 克久	
	商工労働部 産業振興課調整監	若槻 眞二	
	中山間地域研究センター 所長	長谷川 好孝	
	中山間地域研究センター 企画情報部長	今岡 清雄	
	中山間地域研究センター 農林技術部長	桔梗 教明	
飯南町農業委員会	会長	瀧 宏明	
飯南町	副町長	田部 五月	
	農林課長	熊谷 利夫	
	政策推進課長	松田 辰志	事務局

飯南町産業活性化ビジョン策定ワーキング会議員名簿

団体名	所属・役職	代表者	備考
飯南町商工会	青年部長	早瀬 英二	
	経営指導員	田中 聰	
雲南農業協同組合	飯南経済センター課長代理	別木 哲夫	
飯石森林組合	飯南事業所長	吾郷 公	
島根県	産業振興課企画員	小豆澤 勝	
	産業振興課企画員	大畑 光延	
	中山間地域研究センター 企画情報部調整監	生田 祐介	
	中山間地域研究センター 環境資源グループ科長	富田 節雄	
	中山間地域研究センター 森林保護育成グループ科長	坂越 浩一	
	中山間地域研究センター 木材利用グループ科長	中山 茂生	
	中山間地域研究センター 主任研究員	有田 昭一郎	
里山コミッション	事務局長	金岡 豊	
飯南町	農林課課長補佐	中祖 勉	
	農林課農林担当主任	田村 正	
	政策推進課企画員	西 満広	
	政策推進課企画担当主任	田部 宏幸	事務局
	政策推進課プロジェクト担当主任	三島 光暁	
	政策推進課プロジェクト担当主任	藤原 将洋	
	政策推進課里山コミッション担当主任	奥野 憲孝	
	政策推進課里山コミッション担当主事	安部 亜裕子	



生命地域

飯南町

